

四旬節第1主日の説教

金 大烈 神父 2011年3月13日(日)

《東北・太平洋沖大地震 その痛みに主と共に与る》

何よりも、皆様の顔をこの様に見る事が出来て、感謝する気持ちで一杯です。

(3月11日、東日本を襲った巨大地震では、群馬県東部にある太田市でも、いまだかつてない大きな揺れを経験しました。)

驚かれたでしょう。怖かったです。人間ならその様な気持ちになります。揺れが始まった時、どの様な気持ちでしたか。その時何をなさったのですか。(多くの方が「祈りました」と答えました。)今も、第一朗読の時も揺れを感じますが、この様に長く続く地震も初めての経験でしょう。どの様な気持ちになりますか。不安ですよ。テレビを見ると、想像できない光景が、この日本という国の上で起こっている。1万以上の人々が孤立して、暗闇の中で、震えながら夜を過ごさなければならない。飛行機でさえ紙くずの様になっているその光景、車が家の屋根に乗っている光景。想像さえ出来なかった事が起こっていましたね。

そして皆様は不安に陥り、怖さを感じたと思います。今日一つだけ、この場で申し上げます。結局、私たちが必要としているのは、怖かったその時、不安に陥ってどうすればよいか分からなかったその時、本当に驚いたその時にみせたその反応そのものです。“切実に祈られたご自分の姿”を一生持って行って下さい。その様に切な心で祈って下さい。

2～3ヶ月後、ある程度回復したら人間は忘れると思います。神戸の地震の時もそうでした。その時も日本中の人々が一つの心になって祈りました。「私たちは天を恐れ敬いながら、お互い優しい心を持って生活しなければならない」と日本だけではなく世界中が同じ心で祈りました。インドネシアの津波の時も同じでした。しかし、人間のその愚かさはすぐ忘れてしまう事です。そして、つまらない事に全てをかけて、憎んだりする姿を見させているのが私たちではないでしょうか。

皆様、いつも私たちは“準備”されている姿勢で、祈る心を持ってこの世を生きる事しかないと思います。そういう事をいつも意識しましょう。

二つ目は、先ほど私は「皆様の顔が見られて嬉しいです」と話しました。それが率直な私たちの心です。しかしその様な心を越えてもっと大きい姿勢が必要ではないかと思います。「あー、私は被害から何とか救われた」と感謝する心は自然な心です。しかし、今その痛みのうちにいる人々の、その痛みに私たちは共に与らなければいけません。「あー、私は良かった！神に感謝！」と言うにはすまない気持ちになって下さい。「この群馬が大丈夫な事に感謝します」「うちの教会の人々は誰も犠牲がないから本当に感謝致します」という祈りはしてはいけません。この痛みが全部無くなる前に、私たちは同じ心でその痛みに与らなければいけません。感謝すべきことは、全世界の人々がこの日本の為に祈ってくれていることです。

ある意味で神様は、このような難しさを、もしかしたら私たちが新たに立ち上がる機会として与えて下さったのかも知れません。ある人は「神様が私たちに罰を与えているのだ」と言います。いいえ、そうではありません。“罰を与える”のではなくて、私たちが神様の恵みを拒んだから、この様になっているのです。神様は絶対に私たちに苦痛、痛みを与えられる方ではありません。私たちがその恵みを拒んでいるから、神様もどうする事も出来ず一緒に痛んでいらっしやる、そのみ心だと私は思います。

皆様、どこまでこの被害が広がるが誰も予想出来ません。これからもっと強く祈る心で、そして落ち着いた心で、その災害にあわれた人々の為に、これ以上、被害が出ないようによく祈って頂きたいのです。このミサもその意向をもって祈ります。

私は夕べ、夜 10 時ごろまで緊張していました。原子炉の爆発によって、放射能が大丈夫かどうか、今日のミサを中止した方が良いかどうか夜遅くまで考えていました。しかし幸いな事に政府の発表では異常がないとの話でした。それまでうそはつけないでしようと、「このミサに与りましょう」と連絡をしました。

けれど、本当に息が出来ないような、息苦しさを感じました。どうしてかと言いますと、全然電話が繋がらない。まず教会委員長のお宅にかけても、携帯にかけてもどうしても繋がらない。誰にも連絡が取れない。しかし、インターネットはつながっていたので、韓国からは結構連絡が入りました。その中で、何人かの子供たちから「早く飛行機に乗って帰って下さい」と言われました。私は何と答えたと思いますか。「良く考えてちょうだい。羊飼いが羊を置いてどこに逃げられるのか」。その様に初めの日は皆様の事が気になって、こんな事になるのだったら、皆様の家の一軒一軒へ行く道を覚えておけば良かったかなと思うほどでした。(笑い)

皆様、本当にお大事になさって下さい。

ありがとうございました。